

スピード施工 コルクフローリング

取扱／施工説明書

F☆☆☆☆ 大臣認定番号 MFN-1382

仕様

基 材	HDF(高密度繊維板)
表 面	コルク
裏 面	コルクバックিং
サイズ	300×910×10.5mm 4枚/m ²

施工下地

- ・木質フローリング ・Pタイル
- ・コンパネ ・コンクリート※
- ・クッションフロア ・OAフロア

※ 別途防湿シートを敷き、
防湿処理をしてください。

⚠ ご注意

- 本製品は浮床(ウキユカ)専用のため、根太貼り工法はできません。
- 取扱い時は、フローリングの角、サネ部分の破損に特に注意してください。
- フローリングを、接着剤や釘などで床下地に固定しないでください。
- 清掃時に水や洗剤を流さないでください。(サネからの侵入で膨れの原因になります)
- 壁、柱、敷居等あらゆる障害物とフローリングはコルク材の伸縮を
- 台所、洗面室等水廻りの床にはご使用できません。
- フローリング面への漏水等は、すばやくふき取ってください。

■使用上の注意事項

- 床暖房用仕上げ材としては使用しないでください。
- 電気カーペットを直接敷いたり、温風ヒーターなどの熱気が長い時間直接あたると、表面にクラック、目隙が生じることがあります。
- 室内の温度が極端に高くなる時や乾燥する時は除湿、加湿により室内の湿度を調節してください。(湿度50～70%程度を目安としてください)

■施工上のご注意

- 畳やカーペットなどの柔らかい材料の上には、直接施工しないでください。
- コンクリート・モルタル下地の場合、必ず防湿シートを敷いてから、フローリングを施工してください。不陸調整が必要な場合は、発泡ポリエチレンシート(目地つきついで施工)をご使用ください。
- フローリングの伸びを逃げる為、壁際にはくさび等を使用して、5～6mmの隙間をあけてください。

■メンテナンスについて

- 専用ワックス(U-800)をご使用ください。ワックスを床にこぼして塗布するのは避けてください。
- 掃除機又は乾いた布で拭くだけで十分です。
- 汚れは、堅く絞った濡れ雑巾で拭き取ってください。
- 木製の為、水拭きはさけてください。

施工前の準備

1 工具類を揃えましょう。

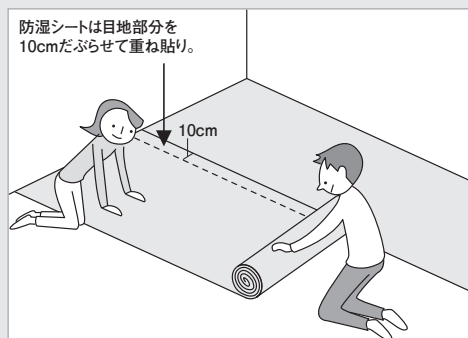
コルクフローリング(以下パネル)の施工にあたっては、次の工具類が必要です。

- のこぎり
- ハンマー
(ゴムハンマーが便利です)
- あて木
- 専用引付金具
- 幅木(厚み9mm以上)
- くさび

2 施工する部分(下地)は十分乾燥させておきましょう。

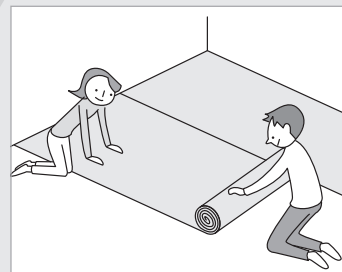
基材のHDFは湿度が高いと膨張することがありますので、パネルを施工する部分(合板下地等)は十分に乾燥させてください。

※コンクリート・モルタル下地の場合は必ず専用の防湿シート(TWS)を敷いてください。防湿シートは目地部分を10cmだぶらせて粘着テープで重ね貼りしてください。



3 下地の不陸(凹凸)をなくしておきましょう。

下地は米粒大のゴミまで完全に取り除きます。
下地の不陸が目立つ場合は、クッションシートを敷いてください。

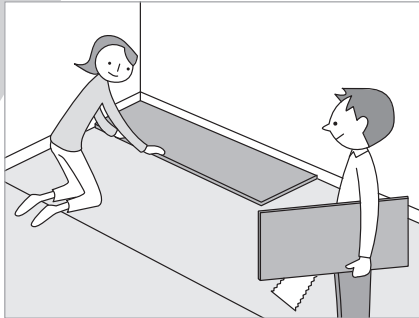


クッションシートの敷設
下地の不陸を確かめて汚れを取り除き、専用のクッションシート(TPS)を継ぎ目を重ねずに敷き詰めます。クッションシートは、必要に応じて下地に粘着テープ等で固定してください。

カーペット下地の場合

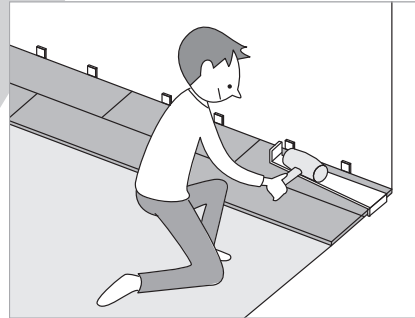
毛足(パイル)長さが5mm以上、カットパイル、厚手のアンダーカーペットがある場合は必ず、仮敷きして歩行感を確認してください。歩行時にフカフカして不快に感じたり、ずれて目地が出やすい場合は必ずカーペットをはがしてから施工してください。

1 コルクフローリング (以下パネルと称す)の敷き始め



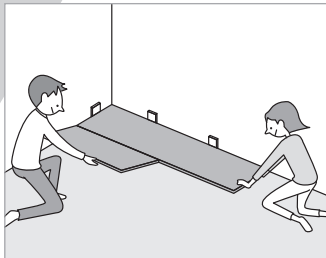
パネルを敷いていきます。
敷き始めはパネルのメス
ザネが手前になるようにし、
壁側のオスザネ部をカット。
また、その手前に敷くパネル
は、レンガ貼りのように
ズラしますので、半分にカット
して準備します。

4 右壁面との敷き納め



パネルの伸びを吸収する
ため、右壁面とパネルの間
で隙間をあけるようにカット
します。右壁面の敷き納め
となる短辺部のはめ込みは、
施工ツールの引付金具を
使うと簡単にできます。

2 パネルの敷き方

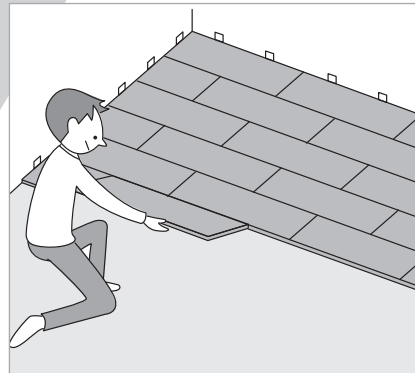


最初に敷いたパネルのメスザネ部に、
手前に敷くパネルのオスザネ部をはめ
込みます。
1.手前側のパネルを斜めに30度ほど
傾けてサネ部をキッチリと入れ、
2.水平に戻してはめ込むようにします。
また、正面壁面と左壁面との間
はくさびを入れて隙間をあけます。



UNICLIC®
Produced under license of Unilin - EP n°(264763) U.S. patent n°6,006,496

5 敷き順序 (3列目以降)



正面壁面側パネルのメス
ザネに手前側パネルのオ
スザネをはめ込みます。
パネルの伸びを吸収する
ため、壁面とパネルの間で
隙間をあけてくさびを入
れます。壁、柱、敷居など
とパネルは必ず5~6mm隙
間をあけます。

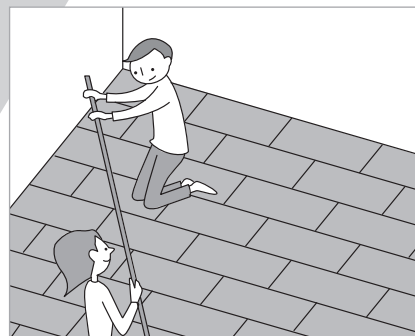
※壁ミキリを使用の場合は
壁とパネルの隙間は、
23~24mmあけてください。

3 敷き順序 (正面壁面側2列)



左壁面から正面壁面に
そって2列敷きます。接合
部の直線を保つため、敷き
順序は厳守してください。
長辺部のはめ込みを終え
たら、専用の当て木をあて
がい、ハンマーで叩いて
短辺部もはめ込みます。

6 残った壁との敷き納め



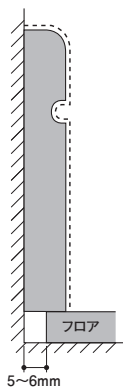
残った壁との敷き納めも
パネルとの間で隙間をあ
けるようにし、パネルをそ
れぞれカットし敷き終
えます。パネルを敷き終
えたらくさびを外し、9mm
厚以上の幅木を取り付け
ます。

● ドア枠との納まりは、ドア
枠下部をコルクフロー
リングの厚み分だけカット
して、コルクフローリン
グをはめこんでください。

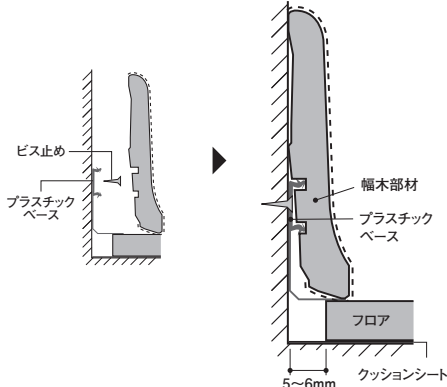
納め部材の納まりについて

専用ミキリ部材を使用する時は、ミキリ内部に5～6mmの隙間を作るようにフロアをカットしてください。
ミキリ部材は、プラスチック製ベースを床下地にビス止めで設置し、フロア施工後に上からかぶせるようにはめ込んでください。

コルク柄合成幅木 (H-60)

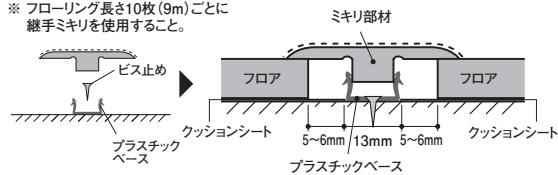


コルク柄合成幅木 (SH-2400)

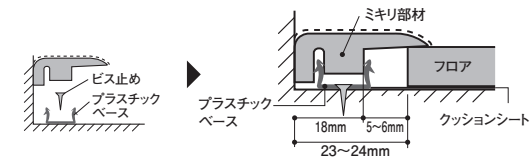


コルク柄合成継手ミキリ (SJ-21、22)

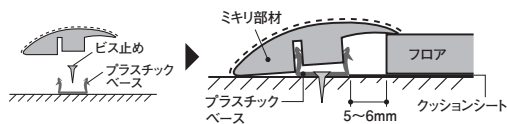
※ フローリング長さ10枚 (9m) ごとに
継手ミキリを使用すること。



コルク柄合成壁ミキリ (SW-31、32)



コルク柄合成段差ミキリ (SM-11、12)



コルク柄合成框 (SK-04)

